

令和5年度学校自己評価シート

(鴻巣市立川里中学校)

| | |
|--------|-----------------|
| 目指す学校像 | 自ら学ぶ力と人間性を育む川里中 |
|--------|-----------------|

| | |
|------|---|
| 重点目標 | <ol style="list-style-type: none"> 1 学力向上—知識・技能を身につけさせる「わかる」授業を— 2 安心できる子供の居場所づくり 3 連携や取組の時代に合った再開 |
|------|---|

| | | |
|-----|---|-------------|
| 達成度 | A | ほぼ達成(8割以上) |
| | B | 概ね達成(6割以上) |
| | C | 変化の兆し(4割以上) |
| | D | 不十分(4割未満) |

※学校関係者評価実施日とは、最終回の学校評価懇話会を開催し、学校自己評価を踏まえて評価を受けた日とする。

| | | |
|-----|-------|----|
| 出席者 | 学校関係者 | 6名 |
| | 当該学校側 | 3名 |

※重点目標は3つ以上の設定も可。重点目標に対応した評価項目(年度達成目標を意味する。)は複数設定可。
 ※番号欄は重点目標の番号と対応させる。評価項目に対応した「具体的方策、方策の評価指標」を設定。

| 学校自己評価 | | | | | | | 学校関係者評価 | |
|---------|---|---|---|---|---|-----|---|---|
| 令和5年度目標 | | | | | 令和5年度評価(令和6年2月1日現在) | | 実施日 令和6年2月16日 | |
| 番号 | 現状と課題 | 評価項目 | 具体的方策 | 方策の評価指標 | 評価項目の達成状況 | 達成度 | 次年度への課題と改善策 | 学校関係者からの意見・要望・評価等 |
| 1 | 【学力向上に関する取組】 (現状) ○学力調査・標準検査では概ね平均という結果である。 ○授業に真面目に取り組んでいる。 (課題) ○基礎的・基本的事項の定着が課題となる生徒が多く学習者として自立できない。 ○体験や対話活動が制限されていたために、現行の学習指導要領に即した指導と評価の教員研修が遅れている。 | ○教職員研修の充実 ○基礎学力の定着 | ○教員の指導力向上のため、学校課題研究を推進する。 ○校内実力テストを有効活用し、教科ごとに課題の分析を行い、低学力層への指導を重点的に行う。 ○TT やいきいき先生の配置や補習など、個別最適な学習のための指導助言を実施する。 | ○研究授業・相互授業参観など他者から学ぶ機会を設定したか。(年3回以上) ○各学年 1学期→3学期の実力テストにおける標準偏差+0.5以上 ○県学力調査において「学力を伸ばした」生徒の割合が県平均より高い。 ○生徒授業アンケート 「学校が楽しい」 「授業がわかりやすい」 3.5以上 | ・学力向上をテーマに課題研究を推進し、相互授業参観や研究授業を実施し、指導力向上につなげた。 ※各学年の実力テスト結果 1年生3科+2、5科+2 2年生3科+3、5科+2 3年生3科±0、5科±0 ・数学・英語の加配と生き生き先生の配置でTTを充実させ、試験前・夏季休業日に補習等の個別学習支援を行った。 ※県学力調査(県平均差) 1年 国+5.7 数+25.7 2年 国+8.4 数+3.1 3年 国+3.1 数+6.8 英-0.7 ※生徒授業アンケート結果 「学校が楽しい」 3.2 「授業がわかりやすい」 3.5 | A | ・課題であった知識・技能について学校課題研究を通じて伸びは始めている。今後は思考力・判断力・表現力や主体性について着目し、指導法の転換が必要である。研究を通じて組織的に取り組みたい。 ・自立した学習者を育成するために、「分かる」段階から「できる」実感を味わえるような支援が課題である。個別学習支援の継続とICT活用を積極導入していきたい。 | 学校関係者からの意見・要望・評価等 ・コロナの制限がなくなり、のびのび生き生き授業に取り組んでいた。 ・自由な雰囲気の中にも秩序が保たれている前向きな様子が見て取れた。 ・先生方も自信を持って落ち着いた指導している。 ○これまでの指導の成果が現れてきている今だからこそ、校内研修を通して教員の真の力量を高めるべきである。 ○全生徒が各種検定へのチャレンジするのも良い。 ○学力の2極化は小さい頃からの自主学習や反復練習が不可欠なので、小学校と連携して取り組むのが良い。 ○教師も生徒も、対話から協同を学び、探求する姿勢を培いたい。 ○教員の自己研鑽を支援したい。 |
| 2 | 【安心できる子供の居場所づくりに関する取組】 (現状) ○生徒指導委員会・教育相談部会を中心として、組織的取組ができています。 (課題) ○不登校傾向の生徒の教室復帰があまり進んでいない ○新型コロナウイルスの影響で生徒会活動が少なくなった。 | ○自己肯定感・主体性の醸成 ○関係諸機関との連携強化 | ①学校行事・部活動等で集団活動での体験を増やし、やりがいや楽しさを実感させる。 ②全員加入の委員会から代表者選出に変更するなどシステム改良によるやりがいの創出 ③教育相談部会におけるケース会議の充実と関係諸機関との連携 | ①行事終了後の振り返りアンケートで「楽しく参加できた」3.5以上 ②委員会生徒アンケート 「リーダーシップを発揮できた」3.5以上 ③不登校生徒それぞれの社会とつながる居場所づくりができたか。 | ・学校行事は実施方法を時代に即した形に変えコロナ禍前水準まで戻せるものは戻せた。 ※「楽しく参加できた」3.8 ・代表選出により、生徒の仕事への責任感やリーダーシップの育成が図れた。また、自主的に奉仕に参加する体制も整いつつある。 ※「リーダーシップ」3.1 ・教育相談部会を週1回授業内に設置し、情報交換やケース会議ができるようになった。 | B | ・学校行事の実施方法が新しくなり、ほぼ定着したので、資料を残し、継承・改良する。 ・部活動については生徒数や運動部への入部希望者の減少、クラブチーム加入者増加、働き方改革等もあり、精選せざるを得ない状況が今後も続くので、生徒がやりたいことをできるような支援を体系化していきたい。 ・不登校生徒の自立支援のために、更に校内教育相談を充実させていく。関係機関との連携を強化していく。 | ・生徒の学校生活がとても充実している様子がうかがえた。 ・本来、一番安心できるはずの家庭環境に問題を抱える子供もいるので、学校をはじめ、家庭以外の場所で安全が確保されることはより大切になってきている。 ○理由は様々だが、不登校対策が必要 ○学校運営委員会委員をはじめ、地域に協力してほしいことを発信してほしい。 ○言われたことをやる姿から生徒自身が自主的に取り組みたい場を設定を今後も増やしていく。 |
| 3 | 【開かれた学校づくりの取組】 (現状) ○連携事業等が感染症拡大防止の観点で縮小・中止となってきた。 (課題) ○GIGA スクール構想や働き方改革が進んできており、時代に即した再開が課題である。 | ○川里中学校区小中一貫事業を含む地域連携の再開 ○学校情報の積極的発信と働き方改革の推進 | ①学校・保護者・地域の交流機会を設け、本校への理解を促進する。 ②かわフェス等地域活動に積極的に参加する体制を作る。 ①HP等で学校生活の紹介場面を増やす。e-メッセージによる情報伝達。 ②働き方改革の推進 | ○年3回以上の小中連携事業、学校公開は10回以上設定できたか。 ○のべ100名のボランティア参加を促進する。 ○HP 閲覧数のべ10000回。 ○超過勤務時間月平均4.5時間以内にできたか。 | ・小中連携事業は7回行うことができた。学校公開については行事のみとなった。 ・かわフェスの再開や花久の里での活動でのべ200名以上が地域活動に参加した。 ・HPの閲覧回数は年間13400回 ・e-メッセージでの連絡が定着した ・超過勤務時間は月平均37.5時間となった。 | B | ・行事の公開はできるようになったが、まだ学校公開の機会が少ない。来年度は授業参観も含めた保護者への学校公開を再開し、本校の学校教育についての理解を促進したい。 ・地域活動については継続していく。 ・HPは担当者が更新できるようにする。保護者への通知のペーパーレス化を進める。 ・超過勤務時間の偏りを解消するために分業化・チーム化を推進する。 | ・コロナも落ち着き、いろいろな体験活動や外部指導者の招致など子供の心の栄養になる活動が再開できた。今後も増やしてほしい。 ・将来の川里地域を思い描いて、一貫教育を見据えた取組を期待する。 ・学校が中心となった地域作り、コミュニティスクールの取組の推進。 ○中学生が外向き、関わりを持つ取組も必要。放課後こども教室・老人ホームへの招致はできないか。 ○保護者同士の関わりが減っているため、コミュニケーションの場の設定が必要。 |

